



施政方針

自然と文化と人々がとけあい 心豊かに暮らせるまち 西尾

2月26日から3月22日までの日程で市議会定例会が行われました。初日の施政方針演説で榊原市長は「25年度の市政運営のスローガンに、引き続き『融和』と『協働』を掲げ、還暦を迎えた西尾市のために今一度、原点に立ち返り、謙虚にそしてひたむきに愛するふるさとへの飛躍を目指し、全身全霊で市政運営に努めます」と決意表明し、今年度の主な施策について説明しました。今号では、その概要についてお知らせします。

全身全霊で 市政運営に努める



▲25年度の施政方針を説明する榊原市長

合併3年目となる25年度は、市制施行60周年を迎えます。私の願いはこの節目の年を市民の皆さまと共に喜び合い、分かち合うことです。

そこで、施政方針として、第7次総合計画の将来都市像「自然と文化と人々がとけあい 心豊かに暮らせるまち西尾」を掲げ、民官一体での魅力である自然や文化の保全・活用・継承に努めながら、誰もが心豊かな暮らしを実現できるまちを目指します。

市政運営のスローガンは、引き続き「融和」と「協働」を掲げます。25年度は市民の皆さまとの「協働」により新「西尾市」が初めて策定した第7次総合計画がスタートする大変重要な年です。今を生きる私たちの最大の使命は、現在よりも安心して暮らせる住みやすい西尾市を次世代へ引き継ぐことです。

小惑星探査機「はやぶさ」に

よる宇宙分析の進展のように、新市のまちづくりも地道に進ませていく必要があります。還暦を迎えた西尾市のために今一度、原点に立ち返り、謙虚にそしてひたむきに愛するふるさとへの飛躍を目指し、全身全霊で市政運営に努めていきますので、市民の皆さまにはご理解とご協力をお願い申し上げます。

予算編成について

東日本大震災および集中豪雨による浸水被害が残した教訓を生かして「防災・減災対策」を最重点課題と位置付け、優先的に配分します。

歳入は、景気が緩やかな回復基調にあることから、24年度より7億円ほどの増収となる269億円程度を見込み、歳出では国の緊急経済対策に対応するため、一部の事業を前倒しすることから、一般会計の予算規模は24年度より13億円ほど減額した514億円程度を見込んでいます。一般会計、特別会計、企業会計を合わせた総予算では、996億円の見込みとなりました。厳しい財政状況下ではありませんが、市民サービスの低下を招かぬよう配慮しつつ選択と集中の予算編成に努めました。

25年度の主な施策

新総合計画に掲げました6つの主要施策に基づき、25年度の主要事業を説明します。

No.1 活力と魅力あふれる産業づくり

■観光の振興

将来目指すべき観光のあり方を示す「観光基本計画」を策定し、基本方針を明確化するとともに、市観光協会の組織強化を図ります。また、全国京都会議を開催し、「三河の小京都・西尾」をアピールします。さらに、観光情報誌の発行や首都圏でのPR活動を行い、知名度の向上と販路拡大に努力します。



▲24年度に作成した観光情報誌。

■大型商業施設の整備

西尾駅東で大型商業施設の整備が、25年度中のオープンを目指して進められており、市の玄関口にふさわしい商業施設として大いに期待しています。



■地域ブランドへの支援

地域ブランド「西尾の抹茶」のブランド力が不動のものとして確立できるよう支援します。また、全国的にも知名度の高い地域ブランド「一色産うなぎ」は、慢性的なシラスウナギの不漁対策として、資源の維持や増加の取り組みを県と協力して支援に努めます。

■佐久島の振興

新造船「第三さちかぜ」を生かし、佐久島の素晴らしさを大切にしながら「島を美しくつくる会」との協働により、活性化に取り組みます。

■愛知こどもの国の存続

県に対し、愛知こどもの国全体の存続と、維持管理費を軽減した上で引き続き県による管理を要望していきます。その中で、地元の方々が中心としたNPO法人フロンテ



▲市でもさまざまなイベントを愛知こどもの国で開催し、活性化と来場者の増員に努めます。

イア西尾による指定管理を県に働き掛け、施設の活性化と来場者の増員に努めます。

■企業誘致の推進

最重要課題として引き続き積極的に取り組みます。首都圏などで開催される企業誘致フェアに出展し、トップセー

ルスに励み、当市への進出の優位性を訴えます。また、進出企業や設備投資を行う企業の奨励策を継続し、市内企業の流出防止に努めます。

さらに企業庁が幡豆地区に所有する土地を有効活用し、地域活性化の起爆剤となるよう、県に粘り強く要望していきます。

No.2 利便性と快適性を高める基盤づくり

■交通ネットワークの形成

27年度までに西尾東インタ1まで整備が進む名豊道路の4車線化について、引き続き岡崎バイパス全線の早期4車線化を要望していきます。また、県道西尾幡豆線の吉

良町木田から鶴ヶ池町までの早期整備を県に働きかけます。さらに、市道西川線など25年度中の整備を目指すとともに、都市計画道路中部幹線の整備に着手します。

■上下水道の整備

配水池や水道管などの水道施設の耐震化を進めます。また、「下水道総合地震対策計画」を策定し、上下水道の安定供給を図るとともに、雨水排水計画を見直し、浸水対策にも努めます。

■名鉄西尾・蒲郡線の活性化

公共交通空白地対策 公共交通の衰退は地域の衰退に直結するとの認識の下、民と官の協働により、知恵を結集して名鉄西尾・蒲郡線の利用促進に努めます。

また、「西尾市公共交通計画」を策定し、公共交通空白地対策などの課題を抜本的に検討していきます。

■定住促進に繋がる

■居住環境の整備

24年度中に組合設立予定の羽塚西部地区の支援や、施行中の平坂東部地区と吉山地区を支援し市街地整備を進めます。

No.3 地域を支える文化と人を育む環境づくり

■将来を担う子どもの支援

4月1日から複合的施設の「室場なかよし園」がスタートします。通園施設の定員を増員し、自立に向けた支援体制の充実を図ります。保育園・幼稚園の園庭芝生

化を引き続き実施し、新たに米津・室場・一色西部の各保育園および鶴城幼稚園で行います。

■学校教育の充実

いじめ問題への対応も含めて、これまで以上に家庭・学校・地域社会全体で児童生徒を育てていく取り組みを積極的に推進します。

新たな3学期制は、学期制の特性を生かしたより良い評価と、授業の充実を重視して実施します。

少人数指導教員の配置を継続するとともに、特別支援学級の児童生徒と発達障害児をケアする特別支援教育補助者や、読書指導の充実を図るため学校司書の増員に努めます。

■教育施設の整備

24年度の平坂小学校に引き続き、矢田と横須賀の両小学校で校庭の芝生化に取り組みます。また、小・中学校体育館の天井や照明などの耐震改修計画策定や中学校普通教室に天井扇風機を設置するなど、教育環境の充実を図ります。

■生涯学習の推進

24年度に策定した生涯学習推進計画により着実に進めます。また、矢田地区の生涯学習拠点として、(仮称)矢田ふれあいセンターの26年度のオープンを目指して整備します。

■歴史文化の保存継承
新市の歴史を後世に伝えるための「新編西尾市史」の編纂の準備や、歴史公園と一体化した史跡公園の整備を進め、歴史文化の保存継承を図ります。



▲史跡公園のイメージ図。西尾城の天守石垣を復元し、歴史公園と一体整備を図る。

■スポーツ振興

スポーツ推進計画を新たに策定し、市民の健康づくりの活性化を図ります。また、総合スポーツ公園構想づくりの調査研究に着手します。

No.4
安心できる暮らしを支える健康・福祉のまちづくり

■満足度の高い医療サービスの提供

市民病院の質と経営の根幹となる医師の充実、安心できる暮らしを支える重点課題です。これからも医師の適正配置を大学病院や県へ要望し、医師確保に努めます。

移転後23年が経過し、老朽化が進みつつある市民病院では、中長期営繕計画に基づき長寿命化に努めます。

■健康づくりの推進

「健康にしお21」を策定し、社会全体で支援する環境を整備し、市民の健康づくりを推進します。

■高齢者福祉施策の展開

超高齢化時代に対応すべく、介護保険事業では、第5期介護保険事業計画に基づき、地域密着型小規模特別養護老人ホームおよび小規模多機能型居宅介護事業所が開所します。さらに、特別養護老人ホームおよび短期入所事業所を2年間で整備していきます。

■障害者福祉の充実

「障害者総合支援法」の施行による制度の谷間を埋めるため、障害者の範囲に難病を加えるなど、障害のある方を総合的に支援できるように一層の充実を図ります。

No.5
安全とつながるおいのある環境づくり

■公園整備の推進

「親子で楽しめる公園」の第一期レクリエーションゾーンの整備を進め、道の駅にしお岡ノ山との相互利用を図ります。一色地域文化広場の25年

度中の完成を目指し、市民の憩いの場となるような緑あふれる公園整備に努めます。



▲「親子で楽しめる公園」の第一期レクリエーションゾーンのイメージ。

■環境への取り組み

衣浦14号地内でメガソーラー事業を始めます。また、市有施設の屋根貸しによる太陽光発電も検討します。

■防災力の向上

南海トラフ巨大地震の本市における被害想定と地震津波対策をまとめた計画を策定し、ハザードマップを全戸に配布します。また、一色町公民館敷地内に1000トンの飲料水兼用耐震性貯水槽を設置するとともに、同館ホールを多機能化し、避難所としての収容人数を増やします。

■防災訓練では、主体的避難行動と「自分の身は自分で守

る」の意識付けを徹底していきます。

24年9月に本市を襲ったゲリラ豪雨を受け、北浜川と二の沢川の河川改修を県に強く訴えていきます。

■消防力の強化

24年度から進めている災害通報の受信と同時に、災害場所の検索や必要部隊の自動編成などの一元管理を可能にする高機能消防指令センターの整備を完了させ、消防力の充実強化を図ります。

■協働の推進

市民協働ガイドの導入など、さまざまな行政課題で市民の皆さまから貴重な提言をいただき、オール西尾で対応してきました。さらにこの姿勢を

No.6
市民と行政が共に考え、行動するまちづくり

■協働の推進

さまざまな行政課題で市民の皆さまから貴重な提言をいただき、オール西尾で対応してきました。さらにこの姿勢を



▲市制60周年記念のロゴマーク。このマークの付いた記念事業に、ぜひお越しください。

深化させていきます。

25年度は市制60周年の節目です。この慶事を市民の皆さまと祝い合うとともに、市民公募事業と市の事業が協働連携した多種多様な記念事業を開催します。

■行財政改革の推進

西尾市行財政改革大綱と第4次実行計画に沿って鋭意推進するとともに、事業仕分けを効果的なツールとして活用しながら事務事業の改善を図ります。

■公共施設の再配置

26年度から30年度までを第一次実施期間とする(仮称)西尾市公共施設再配置実施計画を25年度末までに策定するとともに、消防署幡豆分署の幡豆支所への機能移転などのモデル事業を実施して、公共施設再配置を推進します。

■職員の定員適正化

新西尾市職員定員適正化計画に沿って、24年度から26年度までの3年間で職員80人を削減する目標に向けて取り組みます。27年度以降の計画の策定は、権限移譲に伴う事務量などを踏まえ、適正な職員配置を見据えて策定します。

※施政方針の全文は市ホームページで閲覧できます。